

経営比較分析表（平成29年度決算）

長野県伊那中央行政組合（事業会計分） 伊那中央病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	300床以上～400床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPG対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	29	対象	ド透I未訓ガ	救臨が感災地輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
-	39,114	非該当	7：1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

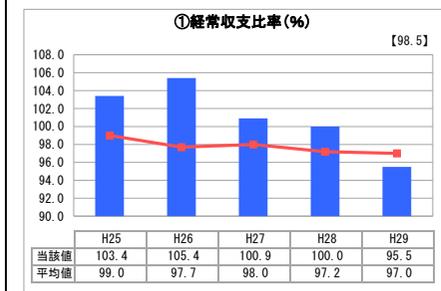
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 ガ…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
390	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	4	394
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
390	-	390

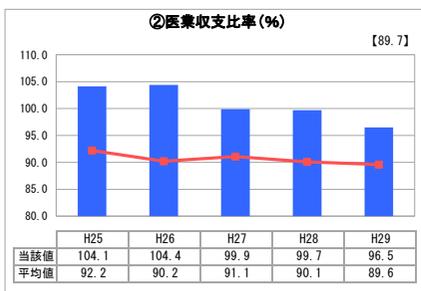
グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 平成29年度全国平均

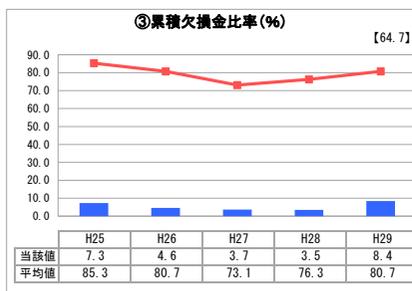
1. 経営の健全性・効率性



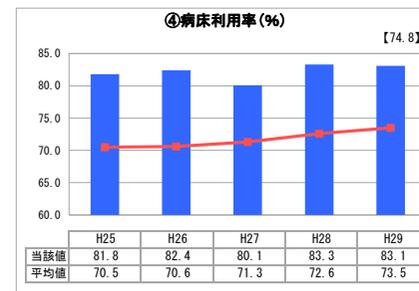
「経常損益」



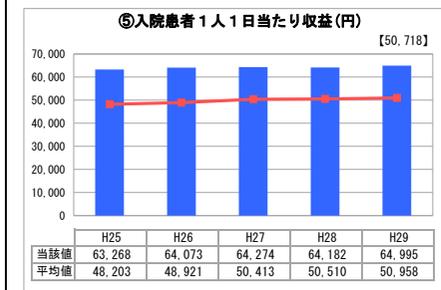
「医業損益」



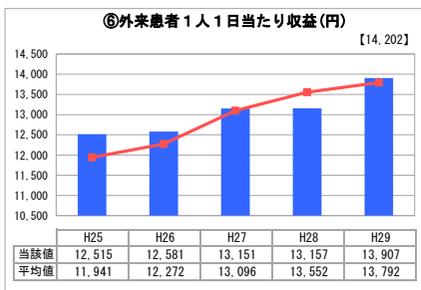
「累積欠損」



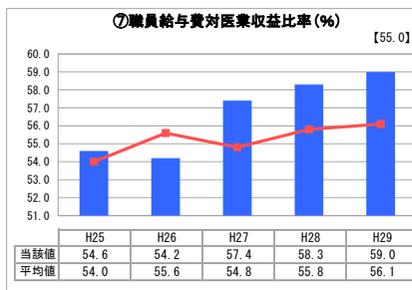
「施設の効率性」



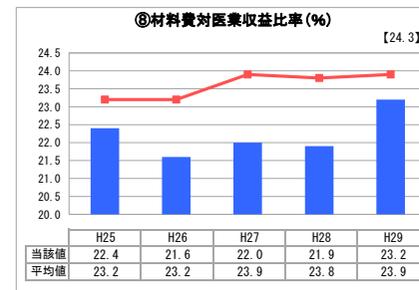
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」



「費用の効率性①」



「費用の効率性②」

I 地域において担っている役割

上伊那地域の基幹総合病院として、救急医療、高度・専門医療など病気の急性期における診療を主体としており、救命救急センター、地域がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院、地域産産期母子健康センター、臨床研修病院、災害拠点病院、第二種感染症指定医療機関などに指定されています。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

施設・設備への投資（北棟開設）や診療体制の充実に伴い平成29年度は赤字決算となり、①経常収支比率は100%を割り込み、類似病院平均を下回りました。②医業収支比率も減少しています。これにより③累積欠損金比率は増加に転じました。④病床利用率は80%以上を確保し、⑤入院患者1人1日当たり収益、⑥外来患者1人1日当たり収益はともに前年度から増加し、いずれも類似病院平均を上回っています。安定した収益は確保できていると言えます。一方で、⑦職員給与費対医業収益比率は類似病院平均を超えて増加傾向にあり、⑧材料費対医業収益比率も、類似病院平均は下回るものの平成29年度は大幅な増加を示しており、これらを含めた費用の増加が赤字決算の要因となっています。

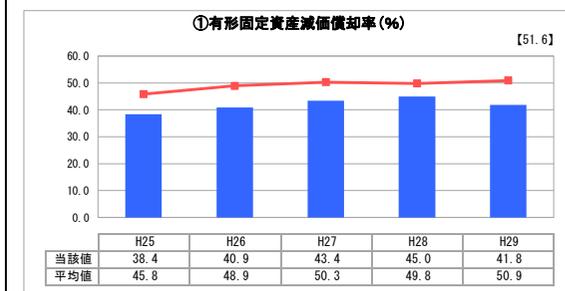
2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は、前年度と比較して減少していますが、これは、北棟開設に伴い、建物や医療器械、備品等の新設及び更新が大幅に増加したためです。特に高額な放射線診断・治療器械を更新したことにより、②器械備品減価償却率が大きく下がっています。また、③1床当たり有形固定資産も大きく伸びています。このような高度・専門医療を提供するために必要な高額医療器械の導入が、類似病院平均と比較して建設投資に費用を要している状況となって表れています。

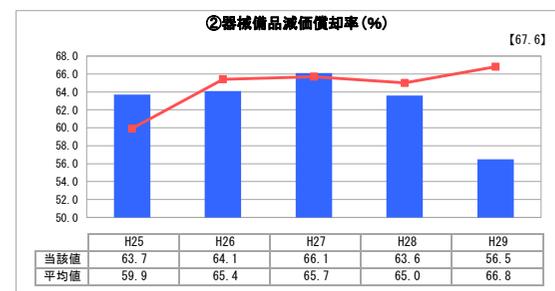
全体総括

北棟開設による設備や診療体制の充実に伴い、人件費や減価償却等の費用も増加し、平成29年度は9年ぶりの赤字決算となりました。単年度収支が再び赤字となるには数年程度を要する見通しで、順調に減少を続けていた累積欠損金は、再び増加に転じます。収益は増加傾向が続いていますが、高度急性期病院としての投資に見合う施設基準や加算の取得に努めながら、更なる収益の確保を図る必要があります。

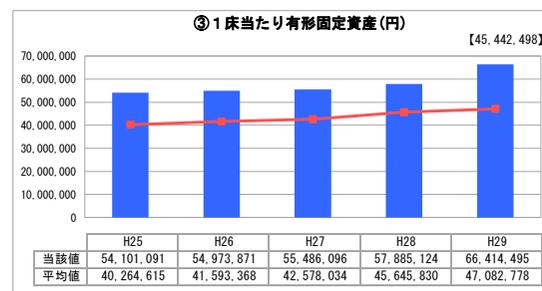
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「器械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。